

## 茅ヶ崎市立西浜中学校

研究テーマ：西中カリキュラムによる教育活動の充実

～考える力・学ぶ意欲・他者とかかわる力の育成～

- ・「探究学習」へつなぐ「学びあい」活動の充実
- ・キャリア教育の視点を取り入れた教育活動の充実
- ・思いやりの心を育む、学級・学年経営

### 1 実践の目的

本校は、学校教育目標「自ら学び たくましく 心豊かに 輝く西中生」の実現に向けて、西中カリキュラムを軸とした教育活動を行っている。授業改善だけでなく学校教育全般において重点目標である「考える力」・「学ぶ意欲」・「他者とかかわる力」の育成に向け、全職員が共通認識をもち、協働して教育活動を行っていくことをより盤石にするために研究テーマとした。

### 2 実践の内容

#### (1) 西中カリキュラムを軸とした教育活動の充実

本校では、学校教育目標の実現に向け、教育活動を計画的かつ組織的に推進している。西中カリキュラムは、本校が目指す生徒像を具現化するため、各種教育活動を体系的に整理した教育計画であり、全教職員が共通理解のもと、指導の方向性を共有しながら教育活動に取り組んでいる。

教科カリキュラムについては、学習指導要領に基づき、指導者によって指導内容や評価のばらつきが生じないように、学校としてカリキュラムを整備し、指導及び評価を行っている。これにより、生徒に対して一貫性のある学びを保障するとともに、教育の質の向上を図っている。

#### (2) 小中一貫した9年間の西浜カリキュラムの構築に向けて

小中接続を踏まえた9年間の学びの充実を目指し、小学校と中学校が連携しながら、教育活動の在り方について協議を進めている。まず、「学び方指導」の統一を重点課題として位置付け、発達段階を踏まえた9年間の言葉のやりとりに関するステップ表の作成に着手した。本取組を基盤として、今後は各教科においても9年間を見通したカリキュラムの作成を進めていく予定である。

また、「学びづくり」「集団づくり」「児童・生徒支援」の3つのグループを編成し、小学校教員と中学校教員が連携を図るための協議を行った。協議にあたっては、互いの学校の実情や指導に対する考え方を理解することを重視し、授業の相互参観等を通して、相互理解を深める取組から実施した。

### 3 実践の成果と課題

#### (1) カリキュラムによる組織的な取組

##### 成果

教職員アンケートの結果から、9割を超える職員が学校教育目標や重点目標を意識して教育活動に取り組んでおり、西中カリキュラムを軸とした共通の方向性が教職員間で共有されている。また、「考える力」を育成する授業づくりや「指導と評価の一体

化」も共通認識が定着し、授業改善に主体的に取り組む姿勢が全職員に広がっている。

#### 課題

教職員が意識して進めている取組が、生徒一人ひとりの学びの実感や成果として十分に表れていない状況が見られた。教科カリキュラムを一層活用し、問いの設定や学びあいの質、「学びのプラン」の活用などを通して、生徒が成長を実感できる授業づくりを進めていく必要がある。

#### (2) 小中一貫教育に向けた取組

#### 成果

小中が連携し、授業参観や交流会を通して、9年間を見通した指導の在り方について協議を進めることができた。また、学校運営協議会において、令和8年度4月からの取組の方向性やイメージを共有し、共通理解を図ることができた。

#### 課題

小中接続や「学び方」指導の統一について、教職員間での共通理解のために十分な共有や確認が必要である。今後は、ステップ表を基盤に、取組の目的や実践を共有し、9年間の学びを見通した指導体制の構築を進めていく必要がある。

## 4 今後の展開

### (1) 協議内容の共有と小中一体となった取組の実働へ

これまでの協議内容及び実践の成果については、学校運営協議会において共有し、小中学校職員や地域の方と教育の方向性を確認してきた。来年度は、今年度の協議や共有の内容を踏まえ、小中が一体となった教育の在り方について、さらに検討を深め、具体的な取組へとつなげていく。

特に、令和8年度は、学校運営協議会を通じて小中一貫教育の推進を本格化させる年

度と位置付け、「学びづくり」「集団づくり」「児童生徒指導・支援」の3つの柱のもと、9年間の学びの積み重ねを体系的に進めていく。

### (2) 9年間を見通した学びづくりとカリキュラムの充実

学びあいにおいては、小中9年間で共通する「学びのステップ」を活用したコミュニケーションスキルの育成を通して、学びの質及び集団の質の双方の向上を図る。また、教科における9年間の接続、問いの設定、さらには学年・学級経営における共通指導事項についても、カリキュラムの中に明確に位置付け、組織として教育効果を高めていくことを目指す。

### (3) 学びあいの質を支える指導の充実

中学校段階においても、改めて「あたたかく聴いて話す」ことを全職員が共通理解のもと、意識的に指導し、学びあい活動の質的向上につなげていくことが重要である。「教室は間違えるところ」「みんなちがってみんないい」といった価値を、授業をはじめとする日常の教育活動全般を通して繰り返し伝えていくことは、学びあいの基盤であり、生徒の成長を支える重要な土台である。

安心して発言できる雰囲気づくりと、生徒同士が良好な人間関係を築いている集団の質は、学びの質を高めるための前提条件であることを改めて全職員で確認していく。

### (4) アンケート結果を踏まえたカリキュラム・マネジメント

生徒アンケートの結果から明らかとなった、授業における核となる課題については、令和8年度の重点取組事項として整理・共有し、全職員に周知した上で、計画的な改善を図っていく。これにより、実践と評価、改善を繰り返しながら、より実感を伴う学びの実現を目指す。